

.....
○議長（初村 久藏君） 昼食休憩といたします。再開は1時5分からといたします。

午後0時01分休憩

.....
午後1時05分再開

○議長（初村 久藏君） 再開します。

報告します。小田昭人君から早退の届出があっております。

午前に引き続き、市政一般質問を行います。11番、小島徳重君。

○議員（11番 小島 徳重君） 皆さん、こんにちは。11番議員、対政会の小島徳重です。ただいま国会も開会中ですが、岸田内閣は、施政方針演説で子ども・子育て政策は最も有効的な未来への投資と位置づけ、諸政策を打ち出しておられます。比田勝市政も子ども・子育て支援に力を入れておられますが、課題もまだあるように感じます。

本日は、幼児教育、子育て支援に絞り、通告に従い、3項目4点、お尋ねいたします。

1項目めは、幼稚園教育の充実についてお尋ねします。

近年、各幼稚園の園児数が著しく減少しています。今パネルでここに示しておりますが、タブレットにも出ていると思いますので、参考にいただければと思います。

現状のままでは、集団を形成しながら人と関わる力を育成するという幼稚園教育の狙いが十分に達成できないのではないかと心配されます。

幼稚園教育要領第2章、人間関係の取扱いの中で、「集団の生活の中で幼児が自己を発揮し、教師や他の幼児に認められる体験をし、自分のよさや特徴に気づき、自信を持って行動できるようにすること」と記述されています。この狙いを達成するためには、現状の1クラス、全クラスが1桁、最小のクラスは2名という状況は、教育の成果を上げるには十分とは言えないのではないのでしょうか。園児数増加のために方策が必要と考えます。教育長の見解を求めます。

2項目めは、対馬市の子育て支援の課題として、放課後児童クラブ、いわゆる学童及び放課後子ども教室の充実についてお尋ねします。

このことについては、私、これまでも一般質問でも、あるいは委員会等でも取り上げさせていただいたことがありますけれども、平成26年に策定された放課後子ども総合プランは、平成31年度末までに全ての小学校区で放課後児童クラブ及び子ども教室を一体的に、または連携して実施することを目指していましたが、対馬市の現状は、放課後児童クラブ4校区、放課後子ども教室3校区であり、不十分であると考えます。平成30年に策定された新・放課後子ども総合プランの趣旨も、大きくは26年のプランを踏まえて、さらに拡充をしたプランが策定されています。対馬市においても、各小学校区ごとに放課後児童クラブか子ども教室を設置して、子

供の健全な育成を図るとともに、保護者の子育てを支えるべきと考えます。市長、教育長の見解を求めます。

3点目は、保育士の働き方及び研修の改革についてお尋ねします。

昨年、静岡県内の保育園で園児に暴行を加えた疑いで元保育士3人が逮捕されるなど、各地の保育現場で不適切な保育が相次いで明らかになりました。

一昨日の新聞報道によると、長崎県でも佐世保市でそのような事例があったと拝見しました。対馬市の保育現場での不適切な保育を未然に防止するためには、保育士の働き方改革、研修の充実が必要であると考えます。

そこで、次の2点についてお尋ねします。

1点目、対馬市では、保育士の働き方改革がどのように進められているかお尋ねします。

2点目、保育士の資質の向上に向けて研修はどのように進められているかお尋ねします。

以上、3項目4点について、簡潔明瞭な御答弁をお願いします。

外は春が訪れて、春の気配を感じるようになりましたけれども、市長及び教育長に温かい御答弁をいただいて、保護者や子供たちがほっこりした気分で新年度に臨めるように期待をして、質問を終わります。

以上です。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 小島議員の質問にお答えいたします。

私のほうから先に、2点目と3点目のほうを先に説明をさせていただきます。

初めに、子育て支援の充実についてでございますけれども、新・放課後子ども総合プランに基づきます放課後児童クラブ及び放課後子ども教室の一体的実施につきましては、教育委員会が関連する部分もございますが、私のほうから答弁をいたします。

まず、市内における各事業の状況でございますが、放課後児童クラブは、5事業者による6施設の実施、放課後子ども教室については、3小学校区において実施しております。

次に、当プランにおける新たな放課後児童対策とする取組内容は、放課後児童クラブの待機児童の解消と、放課後児童クラブと放課後子ども教室の一体的な実施とされております。

放課後児童クラブの待機児童については、年度当初からの待機児童の発生は、今年度が初めてのことでありましたが、施設の拡充と事業者の協力もあり、現在、待機児童は解消されております。また、一体的な実施とは、全ての児童の安全・安心な居場所の確保を目的に、同一の小学校等の敷地内において、放課後児童クラブと放課後子ども教室の両事業を行うことを指します。

放課後児童クラブは、新たに設置するには、専用スペースの確保及び年間開設日数や指導する支援員等において国の運営基準を満たす必要があり、人材確保も含め、施設整備が容易でありま

せん。

また、放課後子ども教室においては、多様なプログラムの実現について、多くの場合、地域住民等によるボランティア活動によって支えられているため、継続的に実施するための人材確保は大きな課題であります。

さらに、一体型での事業の組立ては、学校施設の活用により、本来、多様であるべき放課後の過ごし方が、放課後の学校化につながる可能性も否めないため、慎重に進めるべきであると判断しております。

現在、放課後子ども教室については、新たな開設希望の申出がない状況ではありますが、教育委員会では、校長会の折に授業の説明や奨励を行い、推進を図っております。放課後児童クラブの児童も一緒に共通プログラムに参加できますので、今後はPTAや育成会等の団体へも当事業の必要性の説明や人材発掘の呼びかけ等、積極的に取り組んでまいります。

次に、保育士の働き方改革及び研修についてでございますけれども、1点目の保育士の働き方改革につきましては、労働環境の改善が保育の質の向上へつながるという認識のもと、まずは、慢性的な人材不足の解消に向け取り組んでおります。近年は、特に職員募集等積極的に採用活動に努め、また、保育現場に沿った組織改革を並行して進めてまいりました。来年度は、人材不足の解消ができるものと見込んでおります。

さらに、雇用形態による業務内容の見直しにより、業務量や責任の重さの軽減が図られたことで、職場環境が改善基調にあると認識しております。

2つ目の取組として、業務をシステム化し、業務の効率化及び時間外労働の短縮化を図りました。また、来年度は保護者とのコミュニケーションを円滑に行うためのツールとして、新たなシステムを導入する予定であります。

次に、2点目の保育士の資質の向上に向けての研修についてでございますが、保育士の資質を高めるためには、研修や自己学習などの方法が考えられる一方、自らの保育実践を通して、その資質を向上させる努力が求められると考えております。

実務研修については、対馬保育会が年度計画で実施している研修会等へ可能な限り参加できる体制づくりに努めており、研修内容につきましては、効果的な人材育成につなげられるように目的に応じた内容の充実を図るよう、対馬保育会に奨励してまいります。

また、職員研修については、市が行う研修に加え、関係機関等の様々な研修を効果的に活用し、経験年数に見合った研修への参加を推進しています。

今後においては、多様化する保育ニーズへの対応及び市内2か所目のこども園の開園に向け、幼児期の質の高い教育・保育の実現を図るため、計画的に目的に沿った保育施設への視察研修等を取り入れてまいりたいと考えております。

私のほうからは以上でございます。

○議長（初村 久藏君） 教育長、中島清志君。

○教育長（中島 清志君） 小島議員の幼稚園教育の充実についての御質問にお答えします。

令和4年度、現在の各園の定員、在籍園児数を申し上げます。

厳原幼稚園、定員105名に対して在籍17名、在籍率は16.2%、鶏鳴幼稚園、定員105名に対して在籍18名、在籍率は17.1%、比田勝こども園（1号認定こども）、定員54名に対して在籍16名、在籍率は29.6%です。本市の幼稚園もほかの市町と同様の状況にあり、在籍園児数は、御指摘のとおり減少をしております。このような状況により、やむなく県内においても来年度の閉園を予定している自治体、また来年度から統廃合に向けての説明会を開始予定の自治体もあります。

在籍園児減少の要因としては、夫婦共働き家庭の割合の増加が顕著であり、対馬市においても同様な状況があることは推測されるところであり、保護者のニーズとしては、子供を長時間預けられることが第一に上げられます。これに対する方策としては、一時預かり事業の活用等が考えられます。

しかしながら、比田勝こども園における本事業の利用は、ほぼなされていない状況であり、今後も利用者増加の見込みは少ないものと考えられます。

こうした状況の中にあって、各園では、適切に教育課程を編成することにより、幼児の心身の発達と幼稚園及び地域の実態に即した丁寧な教育活動が行われているところです。

また、園児が減少している中であって、各園では保護者や地域とのつながりを強めたり、異年齢交流など教育課程の工夫をしたりすることにより、幼稚園教育の狙いの実現に向けた教育活動をしていただいているところです。

しかしながら、そうしたことも入園児の増加につながらない現状であり、今後の方向性の一つとして、幼稚園の統廃合も視野に入れていかなければならないと考えております。

以上でございます。

○議長（初村 久藏君） 11番、小島徳重君。

○議員（11番 小島 徳重君） 御答弁ありがとうございました。

まず、順番から、幼稚園のほうから行きたいと思います。

幼稚園のほうの在籍数については、教育長から御説明があったし、私も今、パネルで出しているとおりなんですよね。それで、やはり幼稚園教育は環境の中で行うと。その環境というのは、施設的な環境だけじゃなくて人的環境ということが大きな要素を占めるんですが、人的環境といったときには、先生方との、子供とのコミュニケーション。それから、子供たち同士でのいわゆるコミュニケーションということになりますね。

それで、全9クラスが、幼稚園全部が1桁、それも五、六名とかそういうのが一般的な数で、最小のクラスが2人ということで、今、教育長が答弁いただいたように、異学年交流で年齢が上の子たちと一緒に活動するプログラム、教育課程が含まれているということも承知しておりますけれども、それだけでは十分じゃないと思うんですよね。やはり、それぞれの発達年齢に応じて、3歳児は3歳児なりの発達の要件があります。5歳児は5歳児なりの発達要件があるから、やはりクラス編成をしている以上は、ある程度の人数が必要じゃないかと思います。

それで今、教育長から御答弁をいただいた中にも、いわゆる預かり保育、いわゆる分かりやすい言葉で言えば延長保育、幼稚園は、標準的には4時間の在園というのを基本的としていますので、朝も大体9時半登園とか、そして終わりは2時半とか3時前に終わるとかというのが大体一般的な時間帯だと思うんですが。その中では、その以外の時間のときに、特に帰りの時間で教育長も答弁されたように、共働きが増えているという現状の中では、保護者が幼稚園を選択する、選択肢が狭くなっていくということで、方策としては、全国的には預かり保育の問題と、幼稚園は弁当を持参しなければいけないという、この2つの大きなポイントがあると思うんですよ。そのことを解決しないと、対馬の現状、このままでは増えないと思うんですが、教育長、弁当のことも含めて、給食を取り入れたらどうかということも含めてのお考えはいかがですか。

○議長（初村 久藏君） 教育長、中島清志君。

○教育長（中島 清志君） 実は、今週、ちょうど今年度最後の幼稚園の園長先生に集まっていた園長会を実施しました。その中で、比田勝こども園、こども園の預かり保育の現状を伺ったところ、1号認定の方は、ほぼお母様が御自宅にいらっしゃって、実際にそのニーズがないというのが状況であるということはおっしゃっていました。それも実際に預かり保育の利用が少ないことの一因ではあるかなと思っています。

それと給食に関してですけれども、現在、幼稚園には給食を提供できる施設がない状況でございますので、これは義務づけられていませんので、幼稚園には、となると、弁当をもし給食に変えるとなると、新たな施設の改修等が必要になってまいります。そのあたりも含めて、今後、検討が必要かなと思っています。

○議長（初村 久藏君） 11番、小島徳重君。

○議員（11番 小島 徳重君） 対馬の現状、各幼稚園、事情がちょっとずつ違うと思いますね。巖原は、親愛さんがこども園として幼稚園をお持ちですよね。巖原の場合、親愛さんに聞きますと、親愛さんが17名、27名、17名と、60名を超える園児が幼稚園でおられますね。それと比べると、やはり何が引っかかっているかということ、保護者の立場から言うと、延長保育の問題と給食問題だというふうに捉えています。だから、それは解決できることじゃないかなというふうに私は思うんですよ。

全国的なデータをちょっと出してみますよ。ちょっと私のほうからも見にくいんですけども、これを見ていただくと分かると思いますけど、公立の幼稚園でも70%は給食、あるいは延長保育をなされています。私立は、もう全国的には97%とかいう数字になっています。平均しても全国のこども園、幼稚園は87%、90%近くがそういう延長保育という形、あるいは給食を取り入れているという形になっています。

対馬市もやはり公立の幼稚園として、それは必要じゃないかというふうに思います。特に雞知地区は、幼稚園は少ないけれども、保育所は毎年いっぱいですね。美津島で入りきれないから厳原まで行っているという現状もあります。そういう実情を見ると、給食の時間、給食の問題は施設の問題がありますから、これはまた市長部局にも考えていただかなければいけないという問題です。

それから延長保育するとしても、これもやはり人的な措置をしないと、現在、幼稚園教育に当たっている先生方に預かり保育の、延長保育の時間も面倒見てもらうというのは、これは負担過重になるからあり得ないことで、ちょうど学童、小学生の学童と同じように人的な措置をしなきゃいけなくなります。そういう意味では、これ市長も必要に応じてということで答弁を求めているんですけども、ぜひお考えをいただきたいと思うんですが。市長、今のこと、延長保育や、それから給食の実施となると、財政的な裏づけが必要ですけども、いかがでしょうか。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 現在、保育所のほうにつきましては、副食費等をもう実際に実施しているというような中であって、今おっしゃられたような、幼稚園の現状を考えたときには、まだ幼稚園のほうは給食があってないということ、そこら辺は今後の検討課題であろうかというふうには思っております。

おっしゃられるように、今、子供たちもかなり少なくなってきておりますし、子供の教育に当たっては、やはりそれなりの予算を投入するべきでもあろうというふうには考えております。

○議長（初村 久藏君） 11番、小島徳重君。

○議員（11番 小島 徳重君） それで、もう1つデータというか、資料を示したいと思います。

これ見ていただくと分かるように、3歳児、4歳児、5歳児になりますと、赤い色の部分が、いわゆる幼稚園に在籍する数です。青い部分が、いわゆる保育所機能ですね。1、2、3歳は、0、1、2は保育所で学ぶと。保育所で預かっていただくと。3歳以上になると、やはり幼稚園で教育の体系の中に組み込むというのが、これ全国的な動静ですね。これ教育長、よく御存じだと思います。

今、幼稚園と小学校の連携ということで、幼小連携ということはよく言われますよね。そのことも踏まえて、教育長、幼稚園がもう少し、保護者の声は、幼稚園にやりたいんだけど、さ

つき言われたように、仕事の都合上、どうしても時間制約がある、幼稚園が選択できなくて保育園に行っているんだということと。今、全国的な動静からいくと、対馬市、幼稚園教育はこのままでは消えていくんじゃないかと、消滅するんじゃないかという危惧をしているんですよ。せっかく豊玉にも新しいこども園も造られますよね。これを機会に幼稚園のほうの選択をしていただく。保護者が選択できるような方向を打ち出していきたいと思いますが、教育長、いかがでしょうか。

○議長（初村 久藏君） 教育長、中島清志君。

○教育長（中島 清志君） ありがとうございます。確認ですけれども、今お示ししていただいているグラフの赤のところ、幼稚園の数なんですけれども、その幼稚園には、幼稚園型認定こども園の園児数が入っております。したがって、純粋な幼稚園というのはもう少し減ってくるかと思えます。幼稚園だけの、幼稚園、数といいますかね、もう少し減ってくると思えます。それは確認しておきたいと思えます。

それと、県内の状況を併せてお伝えしておきます。県内に今、公立の幼稚園というのが、もう既に廃園が続いておりまして、全部の市町で21しか残っておりません。

例えば、代表的な例を言いますと、長崎市でも幼稚園は公立は1つしか残っておりません。園児数は6名です。佐世保市も1園、園児数は17名。県内全体で平均をすると、1園当たり17名という状況なんです。

したがって、この状況は、決して、対馬市だけではない問題であるということは確認しておきたいと思えます。

その状況を踏まえて、議員御指摘の今後の在り方をどう考えるべきかということを私たちも一生懸命、検討してまいりたいと思えます。

御質問の小学校等との連携ですけれども、例えば、厳原幼稚園においては、小学校等ではありませんけれども、近くの認定こども園さんと一緒に連携の機会を持ったりとか、そういう取組もされています。近くの小学校、中学校との連携もされています。

以上となります。

○議長（初村 久藏君） 11番、小島徳重君。

○議員（11番 小島 徳重君） なかなかこの場ではっきりしたことをどうという答弁がしにくいところがあると思えます。ただ、幼稚園教育の灯を消さないでほしいという、これ全島、どの地域でも幼稚園を希望すれば行けるという状況、それを今、言ったように給食の設置、それから時間の延長、これを含めて、ぜひ検討いただきたいと。市長もそのように幼稚園の必要性を感じてあるようですからね。

それで1点だけ気になることがあったのが、幼稚園の統合ということをおっしゃいました。統

合ということになると、美津島と今、巖原が公立が2つあるわけですけどね。これ統合したら、美津島と巖原がどちらに統合するかは別にして、ここを今の旧町の枠をまたいで幼稚園を通学させるというのは、どうも納得いかない話ですよ。だから、それは、統合の選択はぜひ外していただきたいと、こう思います。美津島から巖原、巖原から美津島にね、幼稚園で通うというのは不自然な感じがします。それだけはしっかり押さえておいていただきたいというふうに思います。

それから、県下の様子、それも分かります。公立が減っていると。私立は私立なりのバランスとかそういうあたりも十分考えていただいて、ぜひ近年、近いうちに検討していただきたいということを要望して、このことは終わりたいと思います。

それから、2点目の学童と放課後子ども教室の件ですけども、答弁はいただいたとおりに、抽象的というか、そういう意味合いのことが多かったんですけどもね。学童のほうは大きいところ、人口が集中しているところでは学童がありますよね。巖原地区、それから美津島、豊玉、比田勝。ところが、それ以外のところでは今は全然ないわけですよ。だから、学童はこれ以上、その小規模のところを開くというのは難しいかなと思いますが。放課後子ども教室は、それは文科省の所管になりますけれども、ちっちゃい規模のところでも開ける可能性はあると思います。やはり全小学校区に置くというのが国の大きな方針なんですからね、そのことを前向きに進めていただきたいなど。これで平日、1週5日間、ずっと放課後子ども教室で活動していくのが大船越小学校区。ここは、私、議員になる前に、行政相談員をしているときに相談があって、そして立ち上げていただいたんですけどもね。これはほかの校区でも可能だと思うんですよ。それが全然、それから先に10年間大船越小学校で開設、10年前にした以来、開設がないというのはね、ちょっとやはり不十分だと思いますよ。そのあたりは人材不足とかということが今おっしゃったんですけども、行政の努力も少ししていただきたいと思いますけれども、いかがですか。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 答弁しましたように、今その必要性は感じているところではございますけれども、どうしてもこの放課後子ども教室に至っては、ボランティアが主体になるというようなことで、なかなか設置が前に進まないというようなことは私も聞いております。

ただ、国の方針はもちろんありますけれども、なかなかそれが、都市部とこういった離島部となかなか一緒にはならないというふうに私は思っております。

○議長（初村 久藏君） 11番、小島徳重君。

○議員（11番 小島 徳重君） 市長、なかなか大変苦しい答弁ですけどね。これ離島であろうと、都市部であろうと、やはり子供たちにとっては健全育成と、そして保護者の負担軽減という点では、ぜひ進めていただきたいんですよ。

市長、この第2期対馬市子ども・子育て支援事業計画ができて、これ今2年がたったところで

すけど、これに市長も述べてありますが、記憶ございますよね。巻頭言があります。そして、その資料の中の19ページを見ていただいたら分かるんですけどね、こう書いてありますよ。未就学児では、延長保育が必要だと。それから、就学児については放課後子ども教室、あるいは学童の設置が必要だと、そういう保護者が、どちらも偶然一致したように、38.5%の保護者がそういう要望をしてありますよ。これは、部長は目を通して、中身まで目を通してあると思いますが、いかがですか。そのことは把握してありますか。

○議長（初村 久藏君） 福祉保険部長、國分幸和君。

○福祉保険部長（國分 幸和君） お答えします。

放課後児童クラブにつきましては、現在の5事業者による6施設の実施によりまして、利用ニーズは満たされているものと考えております。

以上です。

○議長（初村 久藏君） 11番、小島徳重君。

○議員（11番 小島 徳重君） いや、それがニーズに合った保育サービスを充実するということがこの中に記述してありますが、そのことを承知してありますかと聞いたんです。そして、放課後子ども教室についてはですよ、年次ごとに目標数が掲げてありますけれども、目標数御存じですか。

○議長（初村 久藏君） 福祉保険部長、國分幸和君。

○福祉保険部長（國分 幸和君） 事業所ごとには把握はしておりません。

○議長（初村 久藏君） 11番、小島徳重君。

○議員（11番 小島 徳重君） 目標の数が、放課後子ども教室は、令和4年度が4、次が5、そして次が7ということで年次的に上げてあります。

将来的には、全部の校区というのは、私も別に市長おっしゃったようにそこまでは言いませんけどね。もう少し拡充すべきだと思うんですよ。せめて、この事業計画に上げてある数は実現すべきだと思いますよ。人材は、市長はボランティアとおっしゃいましたけど、これ確かにボランティア的要素はありますけど、いわゆる、お世話をされる方には時間給、800幾ら、900円、午前中出た支援と同じような報酬が出るようになっています。人材確保が難しいと言いますがけれども、大船越校区が成り立っているんですよ。ですね。それはみんな特別、保育士の免許とか、学校の先生の免許とか、特別な資格を得た人じゃないで、今、地域の人たちが3名でやっておりますからね。ほかの地区でもできます。はい。いかがでしょうか。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 確かに、ほかの地域でもできないことはないものとは思ってはおりますけれども、今、ほかの地域がどうしても放課後の関係で、なかなか、放課後、教室のほうに居

るのは難しいというような報告を聞いてはおりますけれども、ただ、もう少しこのことにつきましては、今後も検討させていただきたいというふうに思います。

○議長（初村 久藏君） 11番、小島徳重君。

○議員（11番 小島 徳重君） 部長の答弁があるんですか。ないですか。はい。

○議長（初村 久藏君） 11番、小島徳重君。

○議員（11番 小島 徳重君） それで、これ所管が違うために、国の新・総合プランでも、それから県の計画の中でも福祉部と、それから教育委員会がそういう協議の場を持つようにというふうに運営委員会を設定するよにというふうになっています。対馬市、それが設定されているかどうか、いかがですか。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 私のほうでは、そこはちょっとまだ確認しておりません。

○議長（初村 久藏君） 11番、小島徳重君。

○議員（11番 小島 徳重君） それで、ぜひ連携を取っていただいて、どこの地区にどういうニーズがあるか、そういうことのまず把握から始めていただきたい。

1点だけ確認したいと思いますけどね。ニーズがあれば、要望があれば検討しますというかね、考えますということですが、それは間違いはないですかね。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） もちろん、地域の保護者、また父兄のほうから、そのような多くのニーズがあれば、こちらとしても子育ての一環から検討すべきものというふうには思います。

○議長（初村 久藏君） 11番、小島徳重君。

○議員（11番 小島 徳重君） ありがとうございます。私が聞いている限りでは、要望があって、こども未来課にもお尋ねに行かれた方もいらっしゃると思います。それは部長まで届いているかどうか分かりません。けれども、課のほうには相談に行ったという方は聞いているので、まだ、その人の声は届けたいと思いますので、よろしく願いをします。

それで、やはりそのことについては、市民の方はどういう手だてをすればいいのか、どこの部署にどう行けばいいのかというのがよく分からないところが多いです。だから、やはり市の広報というか、周知活動をもう少ししっかりしていただきたいということをお願いをしておきます。

それから3番目の保育士の働き方、それから研修の件についてお尋ねします。

保育士の定数が幾らで、現在、定員を満たしているかどうか、部長のほうに聞かないといけません。聞いていますが、いかがですか。

○議長（初村 久藏君） 福祉保険部長、國分幸和君。

○福祉保険部長（國分 幸和君） 公立の保育所におきまして、必要な保育士数は確保しております。

す。

○議長（初村 久藏君） 11番、小島徳重君。

○議員（11番 小島 徳重君） 私が把握している数では、保育士標準の配置数に対して、マイナス9で対馬市は配置が動いているというふうに承知していますが、それで間違いないですかね。

○議長（初村 久藏君） 福祉保険部長、國分幸和君。

○福祉保険部長（國分 幸和君） 正確な数値についての資料を持ち合わせておりませんので、申し訳ございません。

○議長（初村 久藏君） 11番、小島徳重君。

○議員（11番 小島 徳重君） それで、まず保育士の数は、定数が62だけれども、53ですかね。それで配置がされていて、そのうち正職の数と、それから会計年度職員等の数が53になっています。定数を満たしていない9名分は月ごと、それから日ごとの職員で運営されているようにあります。そのことについては、市長はどういうふうに思われますかね。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 保育士の定数につきましては、採用も積極的にはやっている現状なんですけれども、なかなか私のところに上がってくる書類の中でも、まず一次試験の点数と申しますか、がちよつとなかなか、もう少し頑張ってもらわないといけないような方がたくさんいらっしゃるということでございます。市としては、もう少し積極的に採用したいんですけれども、ただ、今言いますように、なかなかそこに至らないということで、今後も採用は続けてまいりたいというふうに思っております。

○議長（初村 久藏君） 11番、小島徳重君。

○議員（11番 小島 徳重君） それで保育士の待遇改善という点で、今、対馬市の場合は、保育士は行政職と同じ待遇で採用がされていますよね。それでこれ、やはり保育士さんは物すごく専門職で大切な仕事ですよ。行政職の方と同じ待遇で動いているところも、ほかの自治体もあるかと思しますので、これはやはり、それなりの専門職としての待遇改善をしていったらどうかと思うんですが。そのことの中で特にいい例が、こども園では、幼稚園教諭と、それから保育士さんとが同じ職場で同じような仕事をしてありますけどね、若干、違うところはあるけれども、同じ職場の中に同じ先生と呼ばれる人がいて、幼稚園教諭と、いわゆる保育士が給与差が採用の段階からありますし、年次踏んでも差が詰まりません。このことについてはいかがでしょうか。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 今、現段階では、ちよつとそのような状況報告等も全くあっておりませんし、私も今、この場でそういった提案があってもなかなか判断が難しいと思っております。

ただ、その中で、要は、特に保育士等におきまして、会計年度任用職員と正規職員の関係では、

きちんとその業務をすみ分けしていきましょう。そしてまた、その中でも、月額会計職員がやむを得ず担任等を受け持ったときにはそれなりの手当を支給いたしましょうというようなことまでは、市として実施するように計画しております。

○議長（初村 久藏君） 11番、小島徳重君。

○議員（11番 小島 徳重君） 会計年度職員、前の嘱託職員と正職の差は確かに少し改善をいただいているというのは把握しています。それよりもっと根本的なところで、保育士の給与待遇を行政職員よりは高めて保育士を採用しないと、先ほど午前中に糸瀬議員が言ったように、若い人は対馬に帰ってこない。保育士関係、幼稚園関係の学校へ行っている人はたくさんいますよ。ですね。けど、対馬に帰ってこないというのは、やはり給料差が都市部とあります。だから、それにまず目が行きますから帰ってこない、そういう現実があります。だから、これは、ぜひ福岡とか都市部で働いている人の中には対馬に帰りたいという人も私も幾らか聞いています。やはり、その人たちが帰るためには給与体系を対馬市頑張らしてあげたらということと、そして帰ってきた折に、やはり、それなりの何か支援をしていただくと保育士さんも帰ってくる。あるいは同じようなことは看護師さんにも言えると思うんですが、そういうことをぜひ、方策として打ち出していきたいなと思います。

それから時間が少なくなっただけですけども、先ほど市長答弁の中で、ICTを取り入れた保育をやる。これは素晴らしいことだと思います。これ行政先取りして、私、質問する前にちゃんと何か、部長や課長、配慮されてから答弁準備されたんだろうと思いますけどね。これ長崎市が今年からやっていますよね。長崎市に私、情報を求めました。事務局を通じて。そしたら、やってみて、先生方の負担が軽減されたということで大変好評です。そして全国的にこれ広がりつつあります。だから、ぜひ対馬市もICTを取り入れて、園内の業務の改善と、それから保護者との、先ほど言われたようにコミュニケーションを取るためにも出欠も、それから緊急の連絡も全部スマホを通じてできる。そういうシステムがありますので、ぜひやっていただきたいと。

それから、もう1点、大きい保育所、職員が三十数名働いている雞知保育所とか、比田勝の保育所も結構な人数です。こういう保育所には、保育士の先生だけじゃなくて、事務的なことを扱っていただく、いわゆる事務職員的な存在の方を置いていただいたら助かりますということが、これは今働いている人は言われません。けど、以前、雞知保育所等に働いておられた所長さんから私は複数聞きました。そしたら自分は事務的なことから軽減されると保育内容のことを十分チェックできたり、若い先生に指導ができますということをおっしゃいます。市長、いかがでしょうか。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 大規模の保育所のほうに事務職員ということでございますけれども、

これは、職員定数の問題等いろいろございますので、果たして、そこまで配置が可能かどうかということにつきましては、今後、多方面にわたって検討する必要があるのではないかなというふうには思います。

○議長（初村 久藏君） 11番、小島徳重君。

○議員（11番 小島 徳重君） ぜひ、最初に言いましたように、子育てに金を投資するということは、すごく効果的だということは、これは国段階でも、政府も言っていますしね、対馬市でもぜひ、そのような施策を打ち出していきたいということをお願いして終わります。

以上です。

○議長（初村 久藏君） これで、小島徳重君の質問は終わりました。

○議長（初村 久藏君） 暫時休憩します。再開を2時15分からといたします。

午後1時56分休憩

午後2時13分再開

○議長（初村 久藏君） 再開します。

引き続き、市政一般質問を行います。10番、春田新一君。

○議員（10番 春田 新一君） 皆さん、こんにちは。新政会の春田新一です。

質問に入る前に、一言、申し上げます。

新たな年を迎え、比田勝市長の2期目の任期も間もなく残り1年となります。今年の夏には3年ぶりとなる国境マラソンIN対馬や、対馬厳原港まつりが開催されるなど、市内で多くのイベントが感染防止対策を講じながらも盛大に開催をされました。しかしながら、本市の人口減少には歯止めがかからず、島内の各産業分野では担い手不足が深刻化し、いかに人口減少を抑制して担い手を確保していくかが、本市の大きな課題であろうというふうに思います。

人口減少や少子高齢化が進む中、持続可能な地域社会を築くため、今まで以上の行政運営に残りの任期も期待をいたします。

また、2月21日には長崎県知事に就任をされました大石知事が来島され、22日と23日の2日間島内の各事業所、公共施設の視察をされました。また、23日には比田勝市長も同行され、上対馬の国際ターミナルや民間の事業所の視察をされたと聞いております。

大石知事の見解では、対馬の峰町佐賀は妻のふるさとでもあり、対馬のために頑張りますと声高らかに話をされておりました。今まで以上に、この県政とパイプを取られることを望みます。よろしく願いをしておきます。

それでは、通告をしておりました3項目について質問をいたします。